

柏崎刈羽原子力発電所 6号及び7号炉
新規制基準適合性に係る審査書類の
信頼性向上のための取り組み結果について

平成29年6月21日

東京電力ホールディングス株式会社

TEPCO

取り組み方針

■ 議論が必要となり得る論点の抽出

- 先行電力の審査情報から当社として新たな論点になり得る事案を抽出

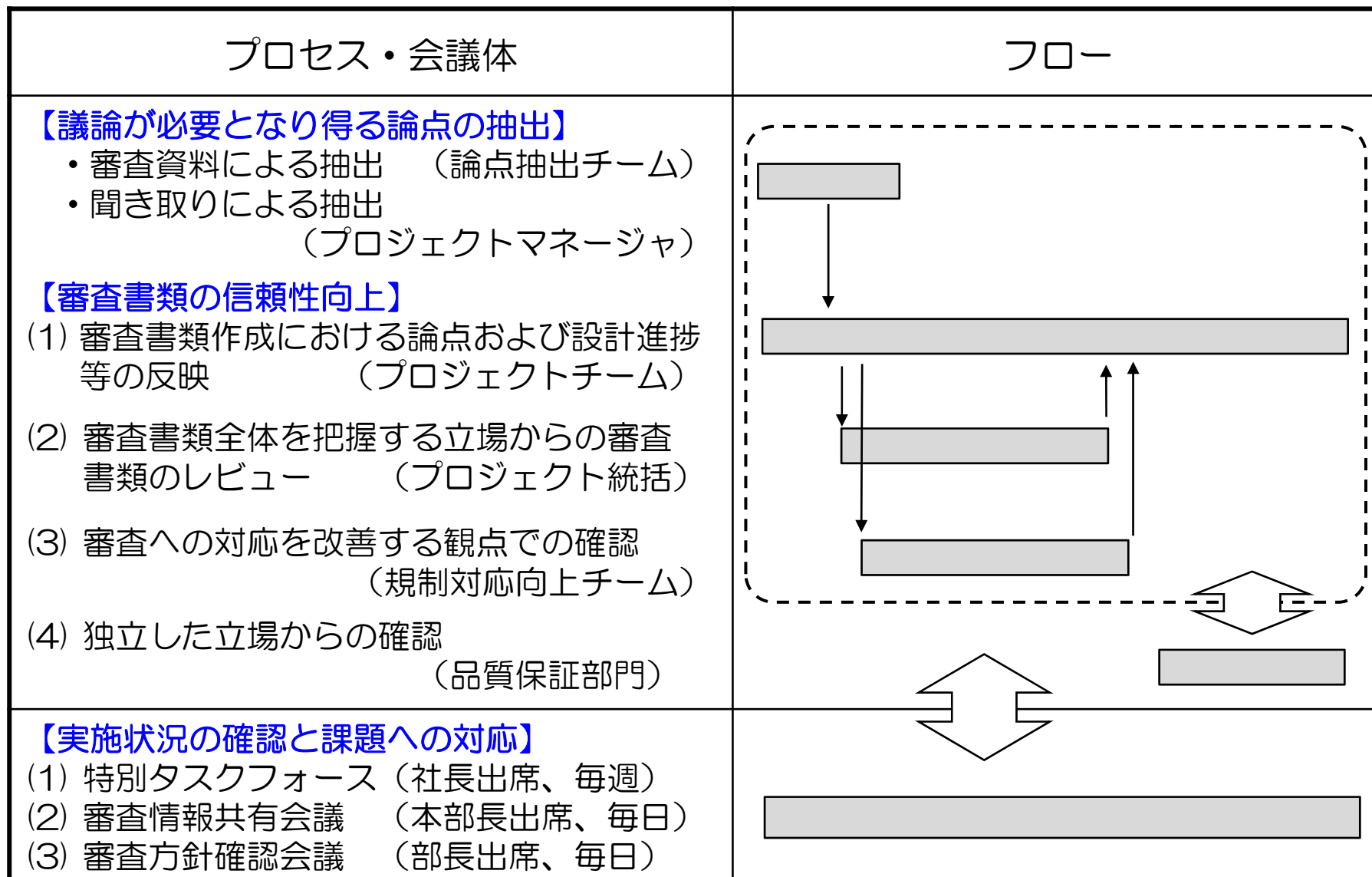
■ 審査書類の信頼性向上

- (1) 審査書類作成における論点及び設計進捗等の反映
- (2) 審査書類全体を把握する立場からのレビュー
- (3) 審査への対応を改善する観点での確認
- (4) 独立した立場から（品質保証部門）の確認

■ 実施状況の確認と課題への対応

- 経営レベル・上位管理者・実務担当者各層に係る会議体で確認し、課題への対応を協議

取り組みフロー



議論が必要となり得る論点の抽出

- 先行電力の審査資料から46件の気づき事項を、聞き取り情報からは11件の気づき事項を抽出
- いずれも当社として新たな論点となる事案はなかったが、新たに5件を審査書類に反映し記載を充実

確認対象 ・方法	先行電力	対象プラント	気づき事項	審査書類 への反映	確認対象資料・情報※(頁 数/コメント数)
審査資料	関西電力	高浜1~4号炉	29	3	資料A (約2,000頁)
		大飯3,4号炉	2	0	資料B (約250件)
		美浜3号炉	1	0	資料B (約150件)
	九州電力	玄海3,4号炉	5	0	資料A (約1,800頁)
		川内1,2号炉	9	0	資料B (約230件)
	四国電力	伊方3号炉	0	0	資料A (約1,800頁)
聞き取り	関西電力	大飯3,4号炉	11	2	聞き取り情報 (17件)
合計			57	5	

※ 資料A：原子力規制庁作成「新規制基準適合性審査の視点及び確認事項」
資料B：事業者作成「コメント回答リスト」

審査書類の信頼性向上

- 論点および設計進捗等の反映
 - 各プロジェクトチームによる審査書類への反映
 - プロジェクト統括が、担当分野に加えて他分野の審査書類を相互にレビュー
 - ⇒ プロジェクト統括の指摘の内約3割は相互確認によるもの
- 審査への対応を改善する観点での確認
 - 規制対応向上チームが審査書類の作成プロセスについて19件を指摘し、審査書類の信頼性を向上
- 独立した立場からの確認
 - 品質保証部門が審査書類作成の適切性について改善点・修正点を指摘し、審査書類の信頼性を向上
- 以上により、合計8,400件の改善を実施
 - 審査における審議結果の反映 : 約400件 (5%)
 - 当社の設計進捗等による反映 : 約3,000件 (35%)
 - 記載の充実・適正化等 : 約5,000件 (60%)

取り組みを通じた学び（組織の改善）

■ 他社に学ぶ

- 先行他社の経験（技術的論点、対応方法等）から謙虚に学び、当社の取り組みを改善

■ 組織のガバナンス・一体感

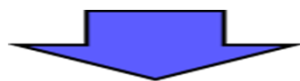
- 経営トップが主導して、組織横断的に課題を共有・解決する仕組みを構築
⇒ 土建部門とプラント部門の協働促進
- 総括管理者のもとでプロジェクト統括が、日常的に担当業務間連携を確認・強化し、組織全体の一体感を醸成

■ 社内外のコミュニケーション

- 各層が日々、迅速に情報を共有し、課題への解決策を協議
- 社外に発信する情報について、それを受け取る側の視点から事前に確認し、内容および説明方法を改善

今後の取り組み（原子力安全改革の加速）

- 謙虚に学ぶことは、安全文化の重要な要素 ⇒ 個人・組織レベルで継続的に強化
 - 安全文化の10の特性に関する、個人レベルでの日々の振り返りと隔週のグループ討議
 - 個人の行動基準「**ファンダメンタルズ**」（本年1月制定、3月改訂）を組織内に浸透
- 組織のガバナンスと一体感の更なる強化
 - 全員が、目標や相互の役割について共通の理解を持って業務に取り組むように、「**マネジメントモデル**」（本年6月制定）を浸透
- 社内外コミュニケーションの改善・強化
 - 上位職からの絶え間ない「問いかけ」によるコミュニケーションの活性化
 - 「**内部コミュニケーションチーム**」（本年3月設置）を始動
 - 情報を受け取る側の目線に沿った丁寧な説明の促進



- 安全改革の取り組みを、これらによって更に加速